

東桜学館互見授業シート

＜実施日＞令和7年〇月〇日(〇)〇時間目 ＜内 容＞ 2年4組 教諭 〇〇〇〇【論理国語】

＜研究主題＞ より効果的に探究的な学びを深める授業をめざして

(重点項目) ①対話による学びを深める授業 ②協働的な学びと振り返りの場の設定

◎授業者は、どの活動のどの段階を狙いにするか、下の表に丸をしてください(複数記載可)

◎実技科目も下表「学びの活動」欄のどれかに丸をしてください

◎下の表を参考にしつつ、作り変えて用いても構いません

◎加えて、授業者は、丸をした段階について、さらに具体的にどういった生徒の姿・発言・状態を狙いとするか、自由記述欄に書き込んでください

◎授業者によって書き込み済みの互見授業シートを参観者に配布して、具体的な狙いを共有しつつ、授業研究を行ってください

学びの活動	1 単純な活動をする	2 要点を取り出す(端的に表現する、確認する)条件を満たす	3 比較検討する表にする、まとめる説明する(説得する)	4 変容にきづく視点を考える応用する
資料(図、表、グラフ、文章)との関係	・資料を使わない ・教員によって決められた素材によって学ぶ	・資料を読み取る	・資料を作る ・複数の資料をまとめる	・学んだことを応用する
狙いとする生徒の具体的姿	論理展開のまとめの際に「具体・抽象を効果的に用いている」「筆者の印象を論の出発点としている」「二項対立を用いながら、自説を主張している」等、論の展開を適切に捉えることができる。			
文章を書く	・自由に感想文を書く	・課された条件を満たしながら文を書く ・資料の要約や現象の説明をする文を書く	・主張や要点を表にまとめ、分析・説明する文を書く	・まとめを受けて、さらに発展させた文を書く
狙いとする生徒の具体的姿	論理展開を評価する際に、「筆者の印象を論の出発点としており、初めの部分は読者にとって理解が難しいが、具体・抽象を往還しながら論を展開することによって、読者の理解を助けるものになっている」等、根拠を明確にしなが評価文を作成している。			
話し合う	・感想・意見を披露し合う ・問題のより良い解決法について話し合う	・相手の自分の感想・意見の共通点と相違点を確認する ・複数の解決法の違い(長短)を確認する	・共通点と相違点をまとめ、説明する(さらに話し合う) ・より良い解決法を選び、その理由を説明する	・まとめを受けて、さらに発展させた意見を持つ ・まとめを受けて、発展的な問題を解決する
狙いとする生徒の具体的姿	意見交流の際に「形式段落①は筆者の主張から論を展開させている」「形式段落②と③は筆者独自の表現を用いながら、繰り返し同じ内容の主張をしているので、結果的に読者の理解を助けている」等、本文の具体的な箇所を挙げながら、他者の意見と自分の意見の共通点や相違点を口頭で確認することができる。			
読む	・ただ読む ・登場人物の行動や発言の真意を考える	・表現の含意について考える ・段落分けの意味(文章の全体の構成)を考える	・全体の流れを構成図にまとめて理解する ・複数の主張について、表にまとめる ・複数の法令や契約、定義について比較検討する、表にまとめる	・まとめを受けて、当初の読解からの変化を説明する ・まとめを受けて、当初の立場からの変化を説明する ・まとめを受けて、法令、契約、定義について改善点を説明できる
狙いとする生徒の具体的姿	前時までの学習内容をふまえ、「形式段落①筆者の印象」→「形式段落②③の印象を抱いた内容の分析」等、おおまかにでも論理の流れを押さえることができる。			
問題を解く	・ただ解く	・条件を満たして解く	・出題意図について考える	・作問する ・採点する
狙いとする生徒の具体的姿				

国語（論理国語）学習指導案

【授業のテーマ】
自己と他者・テキストとの対話を通して、
論理的思考力を高める授業

日 時：2025 年〇月〇日(〇)〇校時
場 所：2 年〇組教室
指導者：東桜学館高校 教諭 〇〇〇〇
対 象：2 年〇組〇名（男子〇名，女子〇名）
教科書：第一学習社『高等学校 論理国語』

- 1 単元名 理解編Ⅰ『『美』をどう見て、どう語るか』
教材名 清岡卓行「手の変幻」

2 単元の目標

- (1) 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕(1) イ

- (2) 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B (1) エ

- (3) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、批評したり討論したりする活動。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B (1) エ)

4 指導にあたって

(1) 教材観

本教材は彫刻論・芸術論であり、限定された「有」よりも豊かな可能性を含んだ「無」に関心を置くという逆説が論の中心を占める。「逆説」や「普遍・特殊」という現代評論で頻出の概念について、理解を深めていくことに適した教材である。「有」と「無」の二項対立を捉えさせ、そしてその構図における「無」を重視する筆者の価値観について、独特の文章表現に着目させながら、理解を深めさせたい。

(2) 生徒観

文系クラスと言うこともあり、発問に対する反応も良く、授業に意欲的に取り組もうという姿勢が見られる。OPP (One Page Portfolio の略称。授業の振り返りシート。) にも自身の学習を内省し、授業で身に付けたことを客観的に捉える力があることをうかがわせる記述が見られる。一方で、事前アンケートからは論理的な文章（評論）を読むことについて、苦手意識を持つ生徒も 31.6%おり、その理由の一つとして「流れや展開を理解することが難しい」と述べている。また、国語の問題（評論）を解くときに難しいと感じる要因について、「選択肢の微妙な違いが理解できない」ことが多くの生徒から挙げられることから、論理展開を丁寧に把握したり、文章表現を正確に理解したりする力に課題を抱えている。

(3) 指導観

抽象度の高い文章であり、初読の段階では筆者の主張を追うことが難しいため、言い換え表現や二項対立の構造を整理しながら、丁寧に筆者の主張を読み取らせていきたい。また、本文の文章表現に即して具体・抽象を往還することで、本文の理解を深める活動を展開していきたい。

さらに本単元では、一通り読解を終えたあとに、自分で改めて論理展開を整理させ、グループで共有し、そのうえで筆者の論理展開を評価する学習活動を実施する。根拠を明確にしながら批判的に文章を分析することを通して、他者の考えを客観的に捉える論理的な思考力を養っていきたい。

(4) 評価の規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)	①文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。(B(1)エ)	①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。

4 指導と評価の計画 (全6単位時間想定)

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○本文を通読し、OPPの挑戦の間に取り組む。	〔知識・技能〕①	「記述の点検」
4	○自説を主張するために、筆者が冒頭部分でどのような論理展開をしているかを理解する。 ○筆者の主張をふまえて「逆説」や「特殊・普遍」という重要な評論用語について理解を深める。 ○二項対立の構成や、具体・抽象を往還することによって、「無」を重視する筆者の価値観の理解を深める。	〔思考・判断・表現〕① 〔主体的に取り組む態度〕①	「記述の確認」 「記述の確認」
1 本 時	○筆者がどのような論理展開で自説を主張しているか整理する。 ○文章の構成や論理展開を適切に捉えるために評価文を作成する。	〔思考・判断・表現〕① 〔主体的に取り組む態度〕①	「記述の確認」 「記述の確認」

5 本時の指導

(1) 目標 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ

(2) 過程 (55分)

分	*学習活動 ○発問 ☆指示等	●指導上の留意点 ◎評価 ◇支援
導入 (5分)	☆本時の目標の確認。 結論に至るまでの筆者の論理展開の仕方について、「納得のいくもの」だったかを評価する。 ☆本時で行う学習活動を確認する。	●学習活動のねらいについて確認する。 ●本時の学習活動の流れを提示する。 個人→グループ→グループ間交流→個人

展開 (45分)	*これまでの学習をふまえ、論理展開を自分なりにまとめ、評価する。(10分) *グループで論理展開や評価について、考えを共有する。(15分) *グループ間交流を行い、他グループの考えを共有する。(10分) *他者の意見をふまえ、評価文を作成する。(5分)	●論理展開のまとめ方を例示して、取り組みのイメージがもてるようにする。 ◇机間巡視を行い、円滑に取り組めるよう助言する。 ●Google スライドを用いて、イメージを共有しながら、論理展開について分析する。その後、論理展開の仕方について、どのように評価するか吟味する。 ●論理展開の分析・評価については根拠を明確にして伝えるように促す。 ●他者の意見をふまえ、評価文を作成することによって、 ◎〔思考・判断・表現〕① 「記述の確認」 ・文章の組み立て方や論の流れが効果的か、また意図をわかりやすく伝えているか、根拠を明確にしながら評価しているかを分析する。
まとめ (5分)	*本時をまとめ、振り返る。 ☆OPP 回収	◎〔主体的に取り組む態度〕① 「記述の確認」 評価文作成を通じての学びを相対化して捉え、文章化しているか。

(3) 評価

【評価方法】

記述の確認

【評価資料】

ワークシート

【評価規準】

文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から適切に評価できている。

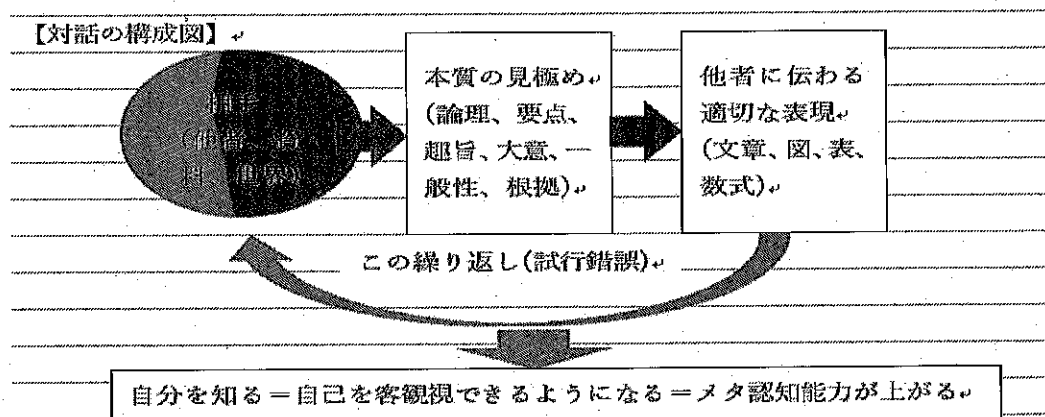
(「十分満足できる」状況 A)

文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価できている。

(「おおむね満足できる」状況 (B))

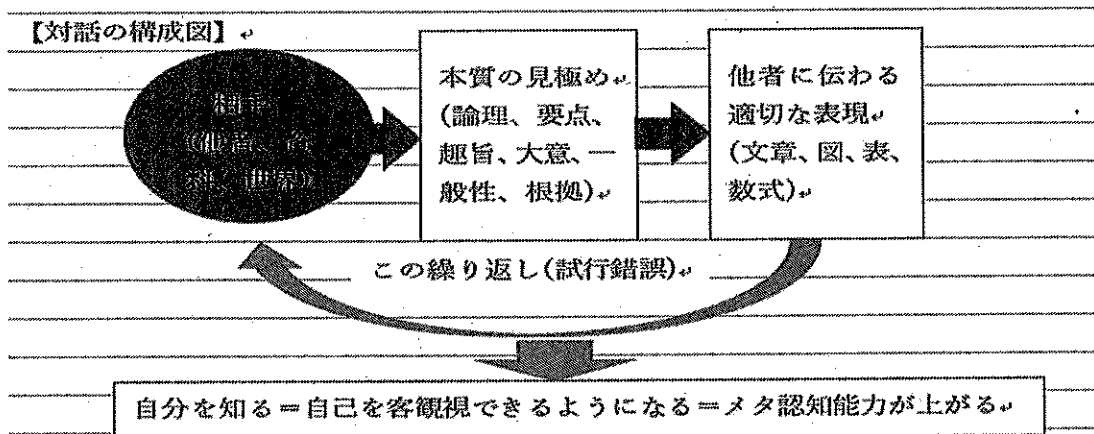
文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価できていない。

(「努力を要する」状況 (C))



授業の流れ・対話による学びとの関連

時間	学習内容	対話の観点
5分	本時で行う学習活動の確認	特になし
10分	論理展開を自分なりにまとめる 拡散→収束	テキストとの対話 筆者の論理を捉える
	論理展開を評価する 収束	自分との対話 客観的な評価の実施
10分	グループでの共有 拡散→収束	他者との対話 他者に伝わる表現
10分	グループ間交流 拡散	他者との対話 他者に伝わる表現
5分	評価文の作成 収束	自分との対話 客観的な評価の実施
5分	OPPによる振り返り 収束	自分との対話 学習内容の相対化



授業の流れ・対話による学びとの関連

時間	学習内容	対話の観点
5分	本時で行う学習活動の確認	特になし
10分	論理展開を自分なりにまとめる 拡散→収束	テキストとの対話 筆者の論理を捉える
	論理展開を評価する 収束	自分との対話 客観的な評価の実施
10分	グループでの共有 拡散→収束	他者との対話 他者に伝わる表現
10分	グループ間交流 拡散	他者との対話 他者に伝わる表現
5分	評価文の作成 収束	自分との対話 客観的な評価の実施
5分	OPPによる振り返り 収束	自分との対話 学習内容の相対化